

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第11回は、学校の文化 です。

逗葉高校の皆さん、5月30日の体育祭(もう、一ヶ月近く経ってしまいましたが)お疲れさまでした。準備段階から天候にも恵まれ、皆さんの素晴らしいパフォーマンスをじっくりと見ることができました。内容も、昨年から一部バージョンアップされていました。「最高の作品は次の作品」という言葉がありますから、来年の実行委員さん達も、ますます企画に磨きをかけてくれるものと期待しています。

さて、体育“祭”といえども競技ですから、当然勝ち負けはありますが、「マナー賞」を黄軍が、「応援賞」を青軍が、「総合優勝」を赤軍がというように、各色がそれぞれのよさを発揮できたと思います。また、各クラス旗も力作ぞろいで、素晴らしいものでした。

閉会式で実行委員長の原君が、総合順位の1位と2位の差は、マナー評価の点が大きく影響したと言ってくれました。「楽しい体育祭」の場面で言い辛いところもあったと思いますが、さすがは実行委員長です。楽しければ、あるいは(自分たちにとっての)一生懸命ならば、多少のルール違反ぐらいしょうがないではなく、行事の成功に一番大切な事は「集合や異装等のルールやマナーを自主的に守って、誇り高い体育祭にしよう！」という逗葉生の気持ちなのだということを、しっかりと生徒の皆さんに伝えてくれました。

皆さんは大きな力を持っています。それは学校の文化を作り上げる力です。実行委員のみんなが、部活動のみんなが、委員会のみんなが、生徒会のみんなが、良い行事にしよう、そして準備や片付けも含めてしっかり楽しもうと、力と気持ちを合わせることで、生徒会行事は運営されています。そこに多くの生徒たちの共感と協力が加わって、行事は進化し学校の文化となるのです。

6月12日には逗子海岸清掃がありました。今年のボランティア募集は、昨年までと少し違っていました。2、3年生の中には覚えている人もいますが、昨年の海岸清掃の後、一部の生徒が遅い時間まで残留し、近隣のコンビニエンスストアの駐車場等にゴミを散乱させたという、とても残念な連絡をいただいてしまったのです。それを知った生徒会役員が、自分たちがしたのではないにもかかわらず、我がこととして謝罪にいき、次からは同じ過ちはしませんと約束したところ、怒られるのではなく、むしろ応援していただけたという出来事がありました。

多数の生徒が一生懸命清掃をしても、少数の不屈き者の存在によって、せっかくの取り組みが台無しになってしまうという例であると同時に、他人事とせず、謝罪に行くことを提案できる責任感のある生徒たちがいるという、逗葉生の頼もしさを感じさせてくれる出来事でもありました。

そして今年の海岸清掃。参加希望者には、逗子海岸への思いを作文してもらいました。いくつか読ませてもらいましたが、しっかりとした良い作文でした。ボランティア活動に参加基準としてハードルを設けるのは、本来の姿とずれてしまうのかもしれませんが、無償の行為だからといって、わがまま勝手な振る舞いが許されるはずはありません。今回の

参加者は、経緯や事情をよく理解し、高い意識と逗子の海への大きな愛情を持って清掃に取り組んでくれました。建設中の海の家の方からも、お褒めの言葉を頂きました。参加者の皆さん、大変お疲れさまでした。どうもありがとう。

逗子海岸清掃の取り組みが、逗葉生の地域に対する感謝と愛情の現われとして、また、清掃ボランティアのお手本として、受け継がれていくことを期待しています。これもまた逗葉高校の素晴らしい文化です。

また、逗葉高校の文化として忘れてはいけないのが、活発な部活動です。

運動部では、南関東大会に出場した陸上部、県ベスト8まで勝ち上がった女子バスケットボール部が記憶に新しいところですが、他にも複数の部活動が県大会に出場したり、地区大会で優秀な成績を収めたり、地域のイベントに参加したりと、活躍しています。

もちろん部員数が少なかったり、成績が振るわなかったり、あるいはレギュラーになれなかったりしても、より高みを目指し日々の練習に打ち込む姿は清々しいものです。技術だけでなく、協調性や礼節などの社会性にもますます磨きをかけていってください。

文化部では、少人数ながら熱心で個性豊かな活動が目を引きまします。自分を表現する仕方は人それぞれで、それが「作品」(茶道の所作なども立派な作品です)となり、周囲に感動を与えます。例えば、校内に飾られた様々な作品は、学校の雰囲気をよくしてくれています。そうそう、部活動紹介等の動画で、学校説明会に大きく貢献してくれている生徒会役員とアプリ・プログラミング同好会の皆さんには、この場を借りてお礼を言いたいと思います。

それぞれが自分の個性を発揮すると同時に自分以外の個性を認めることで、文化的活動は発展します。自分の感性を大切にし、自分とは異なる感性に感動できる、豊かな活動を続けていってください。

行事や部活動だけでなく、学習に向かう姿勢や日常の態度、登・下校時の振る舞いも逗葉高校の文化を作る大切な要素です。文化は次世代へと受け継がれていくものです。皆さんは諸先輩から文化を受け継ぎ、日々そこに新たな何かを加えつつあります。後輩に誇れる学校文化を創る事は、皆さんの重要なミッションです。

そして、学校には多くの生徒がいます。部活動の仲間にも、クラスのメンバーにも、気の合う相手、合わない相手、口もきいたことのない相手などもいるでしょう。そんな多様な人間がいるということも、学校の文化を豊かにしていきます。どうか、自分と違うものとの交流を避けないでください。ましてや、自分と相容れないものを攻撃したりするようなまねは、決してあってはなりません。誰かを攻撃し傷つけることは、自らを卑小な存在にすることであり、文化の担い手としての資格を失うことにもつながります。いじめなどは、もっとも恥ずべき行為であり文化の対極にあるものです。

繰り返しになりますが、皆さんは逗葉高校の文化の担い手です。文化を花開かせるか、萎ませてしまうかは、皆さんの心意気にかかっています。がんばれ!逗葉生!!

平成 29 年 6 月 23 日
校 長 大貫 晶子